



## 農林業の振興と農山村の活性化

主担当部局：農林部



首都圏市場での知事トップセールス



林業機械による木材の搬出

### 目指す姿

農業、農村が持つ資源を最大限に発揮させることにより、奈良らしい農業・農村の活性化を図ります。また、県産材の利用拡大と安定供給を図るとともに、森林の有する多面的機能を発揮させるため森林の適切な保全と活用を図ります。



●協定直売所「地の味 土の香」の売り上げを平成27年度までに

**35**億円

に伸ばします。

(平成24年度：29億円)

●新規就農者を毎年

**60**名

育成します。

(平成15～24年度平均：45名/年)

●木材生産量を平成32年度までに

**23～25**万 $m^3$

に増やします。

(平成24年度：15.4万 $m^3$ )

●施業放置林の整備を平成27年度までの5年間で

**4,700**ha

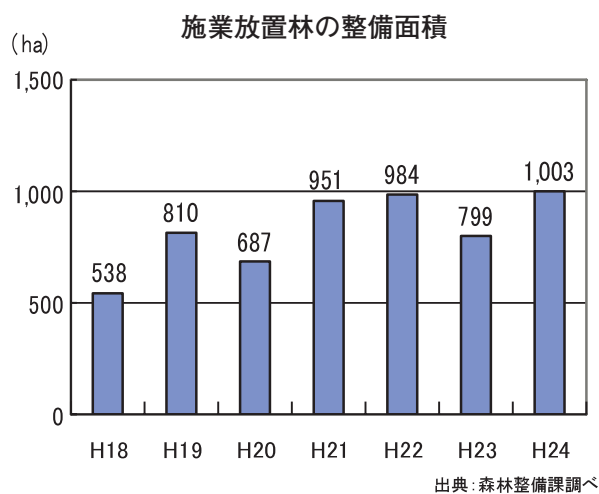
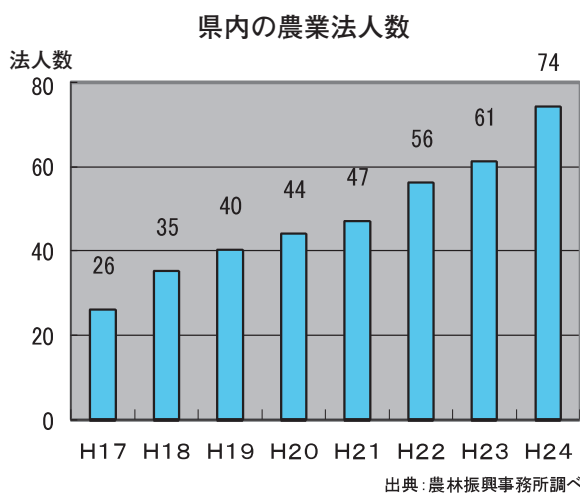
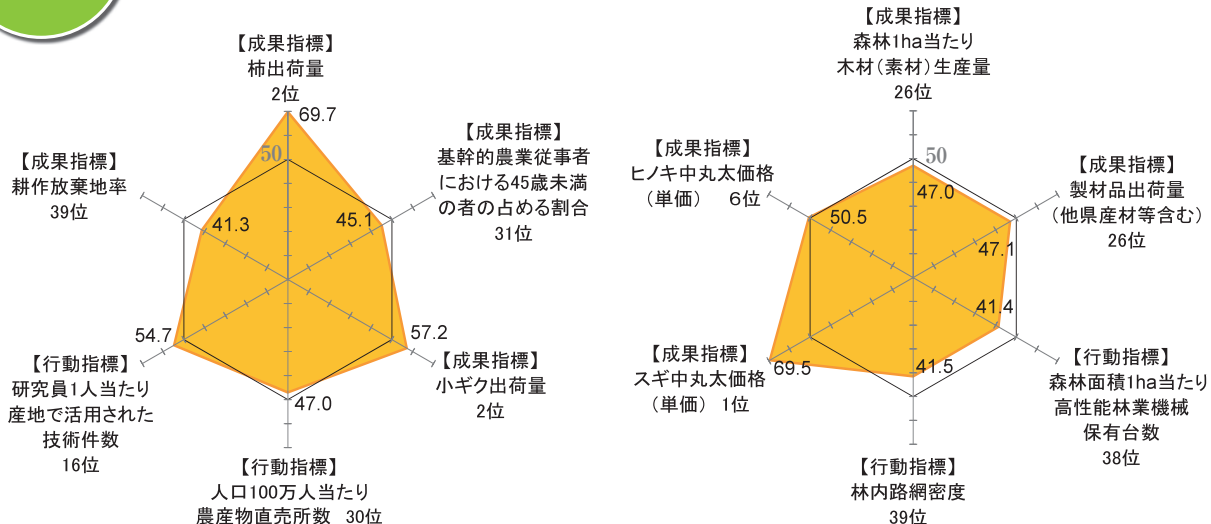
実施します。

(平成23～24年度：1,803ha)

現 状

分析

■ 主な指標



- 今後も奈良県農業を牽引するリーディング品目である柿や小ギクは、全国2位の出荷量を誇っています。
- 農業研究員1人当たりの産地で活用された技術件数は、16位となっています。
- 県内の農業法人数は、普及指導員の支援等により、着実に増加しています。
- 林内路網の整備が他府県に比べ遅れており、高性能林業機械等の導入が進んでいません。そのため、木材の生産・搬出コストの削減も進んでいません。
- 森林内の傾斜35度以上の急傾斜地が占める比率が全国一であるという不利な条件の中で、森林1ha当たりの木材(素材)生産量は、全国で26位と中間に位置しています。
- スギ中丸太、ヒノキ中丸太の素材価格は全国でも上位にあり、高品質材としての販路拡大に取り組んでいます。

戦略1

奈良の美味しい「食」の創造と発信に取り組みます。

主担当課：農林部 マーケティング課

目標

- ▶ 首都圏での大和野菜等を取り扱う仲卸業者を平成27年度までに15業者に増やします。(平成24年度：3業者)
- ▶ おいしい奈良産協力店舗数を平成26年度までに100店舗に増やします。(平成24年度：85店舗)

取り組み

奈良の美味しい「食」づくり

地域ブランド力の向上と販売プロモーションの強化

多様な流通経路の形成による販売促進



首都圏量販店での奈良フェア



JR奈良駅アンテナショップでの情報発信

工程表

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
奈良の美味しい「食」づくり				
◎奈良フードフェスティバルの開催		継続開催		
◎眺望のいいレストランの認定・支援		●追加公募	認定・支援	
◎シェフと生産者のマッチングによる奈良の美味しい「食」づくり	情報発信とコーディネートによる活動強化		民間ベースで展開	
◎東京での県産食材レストランの開設		運営・設計検討	●開設	営業開始
地域ブランド力の向上と販売プロモーションの強化				
◎食と農のプロモーション		多様なプロモーションの実施		
◎県内での県産農産物等PRフェアの開催		旬に応じたPRを展開		
◎首都圏での食と観光PRフェアの開催	●	●	●	●
◎JR奈良駅アンテナショップでの情報発信		情報発信・イベント開催		
◎天理駅前広場でのマルシェ開催によるにぎわいづくり			マルシェ開催	
◎「まるごと味わう奈良」の展開		新たな食イベントの展開		
多様な流通経路の形成による販売促進				
◎農産物直売所への支援		PR支援		
◎おいしい奈良産協力店での県産農産物PR		PR支援	民間ベースで展開	
◎県産農産物の首都圏での販路拡大		首都圏でのセールス、農産物の定期配送	民間ベースでの展開	
◎首都圏での大和野菜等販路開拓		知事トップセールス、シェフへのPR		
◎奈良の「食」のギフト推進		商品企画・ギフトの商品化と販売	民間ベースで展開	

## 戦略2

# マーケティング・コスト戦略に基づき、県産農産物の振興を図ります。

主担当課：農林部 農業水産振興課、畜産課

### 目標

- ▶ **チャレンジ品目** (大和野菜、サクランボ、切り花ダリア、切り枝花木、有機野菜、イチジク)の生産額を平成32年度までに**17億円に増やします**。(平成24年度：16億円)
- ▶ **リーディング品目** (柿、キク、イチゴ、茶、大和畜産ブランド)の生産額を平成32年度までに**131億円に増やします**。(平成24年度：111億円)

### 取り組み

チャレンジ品目の生産拡大・販路開拓等  
(大和野菜、サクランボ、切り花ダリア、切り枝花木、有機野菜、イチジク)



イチジク

リーディング品目の産地競争力強化等  
(柿、キク、イチゴ、茶、大和畜産ブランド)



大和牛

### 工程表

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
チャレンジ品目の生産拡大・販路開拓等				
◎大和野菜の生産拡大		首都圏出荷に向けた実践モデル圃場設置		
		支援チームによる生産指導		
◎サクランボの栽培面積拡大とブランド化		新規植栽や増産、ブランド化へ向けた支援		
◎切り花ダリア周年生産の確立		周年生産に向けた研究・普及、冬春出荷用品種育成		
◎切り枝花木の高品質安定生産		高品質・安定生産、出荷調整技術等開発		
◎有機野菜等の振興	生産安定化技術の実証、登録認証制度の本格運用等		シンボルマーク認証の啓発	
◎イチジクの高品質果実安定生産の支援		高品質・安定生産、首都圏出荷に向けた支援		
リーディング品目の産地競争力強化等				
◎柿産地の競争力アップ		大苗共同育苗による老木園の更新、新品種育成、新規加工品開発		
		首都圏でのPR、輸出拡大・定着支援		
◎キクの高品質安定生産とブランド力強化		安定生産技術開発、省力化技術普及、新品種の育成		
		出荷期間拡大のためのハウス導入		
◎高品質安定生産の実現によるイチゴ産地の復興		新品種の育成、高設栽培技術の導入推進		
		新育苗技術の導入促進、検品方法の改善啓発		
◎味と香りの特徴を活かした大和茶産地の復興		高級かぶせ茶、てん茶の生産支援、リーフ茶消費促進		
		新茶種・新製品等の試作支援		
◎大和畜産ブランドのブランド力強化		高品質・高付加価値化の研究		
		家畜排せつ物の利用促進に向けた調査研究		

### 戦略3

**新規就農者を支援するとともに、意欲ある担い手の育成・確保を図ります。**

主担当課：農林部 地域農政課

#### 目標

- ▶ **農外からの新規参入者を毎年20名ずつ増やします。**(平成20～24年度平均：10名)
- ▶ **家族経営協定締結数を平成27年度までに220戸に増やします。**  
(平成24年3月末：198戸)
- ▶ **農業法人を毎年10法人ずつ育成します。**(平成24年度：13法人)

#### 取り組み

新規就農者等への支援

農業経営に意欲のある担い手の育成・確保

やる気のある兼業稲作農家への支援

多様な担い手の育成



新規就農者



野菜技術研修

#### 工程表

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
新規就農者等への支援				
◎実践研修及び就農後のフォローアップ	農家での実践研修、就農支援、農地の斡旋、経営指導			
◎農業就農意欲の喚起と就農後の定着支援	青年就農給付金の給付			
◎（仮称）なら食と農の魅力創造国際大学校6次産業化研修拠点の整備	新カリキュラムの検討・試行、開校準備			●開校予定
◎新規就農者生活安定支援資金	経営が安定しない就農前後の生活への支援			
農業経営に意欲のある担い手の育成・確保				
◎農業経営に対する支援	意欲ある担い手への農業技術、経営の複合化・多角化、法人化等支援			
◎地域の中心経営体への支援	人・農地プランの作成等支援			
◎高齢者等の人材を活用した労働力確保	農作業繁忙期における労働支援			
やる気のある兼業稲作農家への支援	生産技術指導、集落営農の育成支援			
多様な担い手の育成				
◎障害者の農業就労の促進	障害者就労支援事業所との協定、農業への障害者雇用の推進、農福連携資金貸付			
◎シニア世代の農業参入に対する支援	耕作放棄地再生、農地斡旋、農業技術の研修			

## 戦略4

# 地域資源を活用した農村地域の活性化を図ります。

主担当課：農林部 地域農政課、農村振興課

### 目標

- ▶ 地域づくり協議会への参加集落数を平成27年度までに17集落に増やします。(平成25年度：10集落)

### 取り組み

農産物等を活用した地域産業の振興

農村資源を活用したにぎわいの創出

第34回全国豊かな海づくり大会～やまと～の開催

農村資源の持続的な活用

総合的な鳥獣被害対策の推進



“やすまるさん米” 稲作体験 (田原本町)



海づくり大会 1年前プレイベント (川上村)



ボランティアによる耕作放棄地の再生



イノシシ侵入防止柵と捕獲檻の設置

### 工程表

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
農産物等を活用した地域産業の振興				
◎薬用作物の生産振興		省力・低コスト栽培技術の開発と普及		
	実証ほ場の整備	薬草栽培に取り組む市町村への支援		
◎柿葉生産ビジネスの推進		柿葉専用樹形の実証展示、栽培指導等		
農村資源を活用したにぎわいの創出				
◎農村資源を活用した地域づくり		協議会の設立、イベントの実施など地域づくり活動への支援		
第34回全国豊かな海づくり大会～やまと～の開催	実行委員会の設置、大会PR、機運醸成	●開催		
		天然あゆの活用		
農村資源の持続的な活用				
◎耕作放棄地の再生による農地の有効活用	(仮称) なら担い手・農地サポートセンターによる再生と担い手へのマッチング支援	新たな農業に取り組む農業者への支援		
		景観形成作物導入への支援		
		高齢者等の人材を活用した再生		
		市町村協議会での再生活動の支援		
◎農村資源を活用した再生可能エネルギー利活用	モデル地区での実施	導入への支援		
◎ため池、水田を活用した貯留対策推進	実証実験・課題抽出	実証実験・実施		
◎農業水利施設の長寿命化対策の推進		実施		
◎中山間地域等での農業生産活動等の推進		中山間地域等直接支払、日本型直接支払制度を活用した地域資源の保全活動への支援		
総合的な鳥獣被害対策の推進		地域ぐるみの被害防止活動の実施、侵入防止柵の設置		

戦略5

農業振興のための体制整備を図ります。

主担当課：農林部 企画管理室、農業水産振興課

目標

- ▶ 農業振興に関する条例を平成27年度までに制定します。
- ▶ 研究者1人当たりの産地で活用された技術件数を平成30年度までに0.5件／年に増やします。(平成25年度：0.33件／年)

取り組み

(仮称) 奈良らしい農業の振興と農村の活性化に関する基本条例の制定

農業研究開発センターの整備と研究機能の高度化

加工商品の開発と加工技術の研究



優良品種育成によるブランド強化



小ギクの一斉収穫機による省力化

工程表

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
(仮称) 奈良らしい農業の振興と農村の活性化に関する基本条例の制定				
◎条例の制定	課題整理	検討	● 公布	
◎指針の策定			検討	● 策定
農業研究開発センターの整備と研究機能の高度化				
◎農業研究開発センターの整備		整備		● 整備完了予定
◎研究機能の高度化			実施	
加工商品の開発と加工技術の研究				
◎新商品、加工法の開発		研究開発・商品化		
◎6次産業化の推進・支援				サポートセンター開設、新商品開発・販路開拓を支援

## 戦略6 県産材の利用拡大を図ります。

主担当課：農林部 奈良の木ブランド課

### 目標

▶ 県産材の製材品の出荷量を平成32年度に平成22年度（80千㎡）の**2倍**（160千㎡）に増やします。（平成23年度：85千㎡）

### 取り組み

建築物への県産材利用の拡大

土産物等建築物以外への利用拡大

販路拡大の推進

ユーザーニーズに対応した新製品の開発

木質バイオマスエネルギーの利活用推進



奈良県産材を使用した住宅



「奈良の木フェア」（東京都内）

### 工程表

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
建築物への県産材利用の拡大		公共建築物の木造・内装木質化の推進		
		一般住宅への利用の拡大		
土産物等建築物以外への利用拡大		暮らしの道具、土産物等の開発、商品化		
		小中学校への県産材学習機導入		
販路拡大の推進				
◎首都圏への販路拡大	奈良の木フェア開催	奈良の木ツアー、奈良の木フォーラムin東京開催		
ユーザーニーズに対応した新製品の開発		新製品の開発、商品化		
木質バイオマスエネルギーの利活用推進		実証実験の実施、普及PRなど		



## 戦略7 森林の生産能力の向上を図ります。

主担当課：農林部 林業振興課

### 目標

- ▶ **第1種木材生産林における木材生産量を平成32年度に5万m<sup>3</sup>に増やします。**  
(平成24年度：6,280m<sup>3</sup>)  
※第1種木材生産林：事業体等が県との協定に基づき、低コスト集約化施業により木材生産を行う森林

### 取り組み

奈良型作業道や集材用架線等による木材生産の拡大

「木材生産林」の整備推進

木材生産に取り組む意欲的な担い手の確保・育成



担い手の育成



2t ダンプによる木材搬出

### 工程表

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
奈良型作業道や集材用架線等による木材生産の拡大				
◎第1種木材生産林における低コスト集約化施業への支援		施業団地の募集		
		奈良型作業道開設、林業機械導入、架線集材施設等への支援		
「木材生産林」の整備推進				
◎第2種木材生産林における森林所有者自らによる木材生産の推進		利用間伐、除伐、枝打ち、作業道開設等への支援		
木材生産に取り組む意欲的な担い手の確保・育成				
◎林業機械化の推進		林業機械の導入支援		
◎林業後継者の育成		普及啓発、研修、新規参入促進支援		

## 戦略8

# 森林を活用した地域づくりを図ります。

主担当課：農林部 森林整備課

### 目標

- ▶ **里山づくり推進のための整備を平成27年度までの5年間で125箇所程度実施します。**（平成23～24年度：45箇所）
- ▶ **森林とのふれあい推進のための整備を平成27年度までに20箇所程度実施します。**（平成23～24年度：7箇所）

### 取り組み

より適性な森林づくりの推進

森林・里山とのふれあい推進

林業振興のための基盤整備



曾爾村（長野地区）被災直後



曾爾村（長野地区）山腹工事完成



森林環境教育（自然観察会）

### 工程表

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
より適性な森林づくりの推進				
◎災害に強い森林づくりに向けた検討	森林整備のあり方の研究		● 指針の作成	● 今後の森林整備に活用
森林・里山とのふれあい推進				
◎森林とのふれあいの推進	立入利用、眺望活用のための整備			● 継続等の検討
◎里山づくりの推進		里山林の整備		● 継続等の検討
◎森林環境の学習・教育の推進	森林環境教育の普及啓発、指導者の養成			● 継続等の検討
林業振興のための基盤整備				
◎山地災害の予防と復旧	緊急度、重要度の高い箇所を優先し、早期に実施			
◎基幹となる林道の整備	災害発生時の迂回路としても機能する林道の整備			

## 戦略9 森林環境の適切な保全を図ります。

主担当課：農林部 森林整備課

### 目標

- ▶ **森林環境管理制度**を平成28年度までに導入します。
- ▶ **施業放置林の整備**を平成27年度までの5年間で**4,700ha**実施します。  
(平成23～24年度：1,803ha)

### 取り組み

森林環境管理制度の導入

「環境保全林」の整備・保全推進



適切に保全された森林

### 工程表

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
森林環境管理制度の導入		検討		導入予定
「環境保全林」の整備・保全推進				
◎施業放置林の整備		強度間伐等の実施	継続等の検討	
◎森林生態系の保全・野生鳥獣被害対策の推進				
・ナラ枯れ等森林病虫害の防除				
・野生鳥獣被害防止対策の推進				
		緊急森林被害対策の実施		
		有害鳥獣の駆除・捕獲、狩猟者の確保・育成		

## これまでの成果

**奈良フードフェスティバル2013**（シェフェスタ）を馬見丘陵公園及び奈良公園で開催し、**約19万人が来場**しました。

**柿・茶の高品質安定生産に向けた整備**を**3箇所**（渋柿の脱渋のための保温庫・冷蔵柿の真空包装機・茶の異物除去装置）に**支援**しました。

県内の農村**4地区**で**地域づくり協議会などを設立**し、都市農村交流イベントや特産品（ジャムや化粧品）の開発を行いました。

県産材を用いた**土産物試作品**（吉野杉箸など）を**4アイテム商品化**しました。

県産材の首都圏販路拡大に向け「**奈良の木フェア**」を開催し、都内の有名建築デザイナー等**来場者約260名**に知事のトップセールス、PR商談会等を実施しました。

既選定8団地において、作業道開設等の事業を実施し、上北山村団地等において、**高性能林業機械**（グラップル付バックホウ）**2台を導入**しました。

農業大学校での研修、産地における指導的農家の下での実践研修の実施などにより、平成24年度は**87名が就農**（雇用就農含む）しました。

平成18年度に森林環境税を導入し、平成18～24年度の7年間で**施業放置林を5,773ha解消**し、**里山づくりを142箇所**で実施しました。

## 主な指標の動き

### よくなっている指標

- ◆ **新規就農者数（雇用就農を除く）**  
20名 [H17] → 29名 [H22]  
・就農支援事業等により、就農者数は増加しています。
- ◆ **農業法人数**  
35法人 [H18] → 74法人 [H24]  
・県内の農業法人数は、普及指導員の支援等により着実に増加しています。
- ◆ **人口100万人当たり農産物直売所数**  
30.4箇所（全国46位） [H17] → 77.2箇所（全国30位） [H22]  
・農産物直売所の数は着実に増え、全国順位も上がりました。
- ◆ **林業就業年齢**  
57歳 [H17] → 55歳 [H22]  
・青年就業者の増加により、林業労働者の若返りが図られています。

### 変化が見られない指標、低下している指標

- ◆ **基幹的農業従事者における45歳未満の者の占める割合**  
5.5%（全国29位） [H17] → 4.6%（全国31位） [H22]  
・全国的にも減少傾向にあり、全国順位は30位前後で推移しています。
- ◆ **耕作放棄地率**  
18.5%（全国41位） [H17] → 19.0%（全国39位） [H22]  
・耕作放棄地率は高くなりましたが、全国順位は改善されました。
- ◆ **森林1ha当たりの木材（素材）生産量**  
0.58m<sup>3</sup>/ha（全国21位） [H18] → 0.56m<sup>3</sup>/ha（全国26位） [H23]  
・減少が続いていた木材生産量ですが、下げ止まりの傾向が見られます。
- ◆ **生産林業所得**  
33億8千万円（全国28位） [H18] → 22億1千万円（全国30位） [H23]  
・木材価格の低迷により、減少が続いています。